

平成25年度 学校評価実施報告書

(京都市立 洛水中 学校)No.1

自己評価 【 評価日 : 平成26年3月6日

評価者・組織(名称) : 学校評価委員会

】

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	基礎的・基本的な内容の指導の徹底 知識や技能を活用する力の伸長 教員の授業力向上を目指す公開授業の実施 集中できる授業内容の工夫	学習確認プログラム 総括テスト 公開授業の実施状況 教職員アンケート	学習確認プログラム・総括テストの結果から、3年生の学力は基礎的・基本的な内容の定着、知識や技能を活用する力、共にさらに努力が必要であるが、1年生は京都市水準まで盛り返してきた。2年生も全教科で京都市平均を超えるなど改善しつつある。授業改善に努め、授業の状態は良くなっているが、定着に至っていないのは家庭学習の習慣がついていないことに起因しているものと考えられる。	1年生を中心に取り組んだ「課題をやりきる」「家庭学習を充実させる」ことが学力向上に大きく影響を及ぼしていると考えられるので、入学してくる学年に取り組みを生かしていきたい。 教員はさらに授業改善を進めるために、公開授業を計画的に実施し、授業力向上をめざしたい。
2	豊かな心	道徳教育の充実 規律ある生活習慣・ルールを守る態度の育成 人権感覚を磨き、人権問題解決への実践的態度の育成	道徳教育全体計画の実施状況 生徒アンケート・学習確認プログラム質問紙 人権学活の実施状況と生徒感想文	生徒アンケート・学習確認プログラム質問紙の集計より、依然規範意識や自己有用感が低い状態が続いている。しかし、その数字ほど厳しい実態があるのではなく、要求されていることの高さからこのような数字が出ているものと思われる。 道徳に関しては、学年や学校全体で動くことが多く、学級単位でのよい指導が求められる。	規範意識の醸成のためには、平日の教職員の意識と関わりが重要である。また、道徳の時間の取り組みが不可欠であるので、道徳の時間の展開などを積極的に交流し、高めていきたい。 自己有用感は、生徒の言動について積極的に評価を口にすることで随分改善されてきているので、さらにほめて伸ばしていくなどの視点をもって関わりを深める。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 運動の実践と体力の向上 保健・安全・防災教育の充実	生徒アンケート・保護者アンケート 体力診断テストの全国平均との比較 保健だよりの発刊状況	生徒や保護者アンケートによると、生活時間や食生活など生活習慣が確立していない生徒・家庭が依然多いことがわかる。 生活の状態が体力や身体の状態として現れるので、発育が悪く体力に課題のある生徒も多い。 保健だよりは取り組むべき課題についてタイムリーに発刊されている。	生徒・保護者の意識を高めることが状況改善につながる。学校だよりやPTAの集まりの時に話題にし、生活指導を意識する。 学校だよりや保健だよりなど、配りっぱなしにするのではなく、生徒に内容について必ず一言加えるようにする。
4	学校独自の取組	小中一貫教育の推進 ゲストティーチャーの招聘 情報発信の充実	小中合同研修会の実施 招聘状況 学校だよりの発刊状況・学校HPの更新状況	小中合同研修会は講演を聴いたり、授業研究の後、研究協議会を行うなど積極的に行っている。何度も顔を合わせることが良いきっかけとなって日常的な情報交換なども行っている。 学年別、全校でなどゲストティーチャーに来ていただく機会は多く、生徒の反応も良い。 HPの更新や学校だよりの発刊も積極的に行っている。	小中の連携を深めるために小中連携も不可欠であることを自覚し、引き続き授業研修会も積極的に行っていく。 ゲストティーチャーの招聘は場当たり的にならず、計画的に進められるよう管理職が俯瞰する。 生徒の活躍が満載の学校だよりの発刊・HPの更新を引き続き積極的に行う。

学校関係者評価 【 評価日 : 平成26年2月19日

評価者・組織 : 学校運営協議会

、(学校評議員 いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
校門を入れば花があり、1階の廊下は壁が塗り替えられ、たいへん明るくなった。 自転車に登校したり、コンビニでたむろするなどの姿は見られず、あいさつを積極的にしてくれるなど、地域での状態もよい。 学力的には、1年生の成績が飛躍的に向上するなど、1・2年生が全市レベルにあると聞き、この状態を続けていってほしい。 学校HPの更新や学校だよりの発刊も積極的に行われており、学校の様子がよくわかるように工夫されている。 自己有用感が希薄な生徒が多いということなので、積極的に行事に取り組み、ことあるたびに褒めてあげるなど、意識的に行ってほしい。	評価していただいている部分は今後も継続的に積極的に取り組んでいく。 どのような生徒を育てたいかを常に問い続け、その達成のために教育活動を行い、生徒には意識的に評価を入れていくことを忘れない。

総括・次年度の課題

学力向上の為に、「学習規律の確立」「課題提出の徹底」「家庭学習の定着」を引き続きやりきる。
自己有用感をもたせるために行事に積極的に取り組み、やらせっぱなしでなく、きちんと評価する場面をつくる。
生徒・保護者に真摯に向き合い、保護者・地域に信頼される学校をめざす。